



資料館だより

No.38
2011年
10月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/ecomuse/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

公害地域の今を伝えるスタディツアー2011 大阪西淀川・大気汚染の地を訪ねて

8月8日(月)～11日(木)
にスタディツアーを実施
しました。(49名参加)

今回は、都市部の大気
汚染公害の過去・現在の
姿を当事者から話を伺い、
西淀川がどのように再生へ向かってきたのかを学びます。



ヒアリングの様子

ヒアリングした方々・・・森脇君雄さん(西淀川公害患者と
家族の会会長)/金谷邦夫さん(医師、生活協同組合ヘルス
コープおおさか理事長)/辰巳致さん(デイサービスセンターあ
おぞら苑)/和田美頭子さん(公害病患者)/松井克行さん(大阪
府立旭高等学校)/池永末子さん(公害被害者)/村松昭夫さん



発表会

(弁護士、あおぞら財団理
事長)

/関西電力古河ケミカル
ズ/辻幸二郎さん、エココ
ミュニケーションクラブ(大阪
府立西淀川高等学校)/岡

崎久女さん(公害病患者)/永野千代子さん(公害病患者)/西
口勲さん(元歌島中学校教諭)/天野憲一郎さん(緑陰道路サ
ロン)/国交省国道事務所/池永悦治さん(ヒクイナ会)/大阪府
環境農林水産総合研究所/山岸公夫さん(裁判時、企業の法
務担当者)/多彩な方々からお話を伺うこととなりました。

参加者が学び、感じた事、伝えたいことを話し合い提案に
まとめましたが、自分のモヤモヤをうまく仲間に伝えられず歯
痒い夜を過ごし、朝まで構成を考えたグループもありました。
発表会には、行政から国交省国道事務所、企業からは古河
ケミカルズの担当者の方が足を運んで下さりました。参加者
からは、あおぞら財団への提案もいただきましたので、これか
らの活動の参考にしたいと思います。今回のツアーの詳しい
内容などは、後日、スタディツアーのHPの方へ掲載予定です。

HP <http://www.studytourjpn.org/>

ブログ <http://studytoura.exblog.jp/>

4人の大学生がエコミューズに インターン生 いろいろ大活躍

今年の夏は4人のインターン生が
エコミューズのお手伝いをしてくれ
ました。感想文と活動内容につての
コメントです。



インターン生たち

西淀川図書館展示(2011年9月～10月)『西淀川の水害』展示キャプションづくり・・・パネル作
成では西淀川区の海に近く海拔も低い地理から室戸台風と
ジェーン台風により甚大な被害を受けたこと、当時政策により
大阪湾のすぐ側に隔離されていたハンセン病患者達の悲劇
を中心に見やすく、わかりやすく、を心がけて作成しました。
今回のインターンシップでは実際の公益財団法人の活動を体
験し、ほんの少しかもしれませんがその活動の本質に迫るこ
とができました。(近畿大学 西田貴裕)

僕は、ジェーン台風については、その名前や大きな被害を
もたらしたと小学生の頃に、近所に住むおばあさんから聞いて
いましたが。ここまで大きな被害だったとは思いません
でした。また、今回のインターンシップで色々知らなかったこ
とが多かったので、この機会に様々なことを知ろうと思いました。
(近畿大学 榎田 健二)

聞き取り調査「西淀川記憶あつめ隊」のテープ起こし・・・公
害認定患者になって、当時寝るときや外を自転車で行って
いるときに息ができなくなったという話を聞いて、胸が苦しくなり
ました。そして、裁判の話しとても印象が残りました。今回の
インターンで、もっと公害について学びたいと思いました。(京
都学園大学 林田友理恵)

みんなで作業をして・・・あおぞら財団でのインターンシップ
では図書館の展示パネル作り・6階の資料整理・在庫整理・澤
さんの写真の加工・ポスター作成・環境白書の整理とパネル・
ブログ作成・西淀川公害患者と家族の会の資料&裁判資料
の袋詰めを行いました。

最初はインターンシップが初めての経験だったのでとても
不安でしたが、4人で協力して作業をしていく中でとてもいい
関係を築くことができとてもうれしかったです。(近畿大学
鐘江元気)

もりもとまきの アーキビストの目 ★★★所蔵資料紹介★★★

イ病の経験を伝える

ー県立イタイイタイ病資料館、
来春開館ー

2009年の第1回スタディツアーでは、イタイイタイ病(イ病)の地・富山を訪れました。被害者団体(イタイイタイ病対策協議会=イ対協)、医師、弁護団、マスコミ、行政、被害者家族、企業、農家など、さまざまな立場から「イ病の今」に取り組んでおられる方々のお話を聞き、現地を歩き、私たち参加者はイ病の過去・現在のすがたを知り、その未来のために何が出来るのかを、真剣に

話し合いました。

富山では来春、「県立イタイイタイ病資料館」の開館が予定されています。『復元ニュース第80号・イタイイタイ病第102号』(神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会発行、2011/5、写真左)によると、イ対協など運動団体の活動拠点である清流会館(1976年設立)には、調査の結果、約2,000点の資料が保管されていることが分かり、これらは全て資料館に提供されるそうです。また、語り部や解説ボランティアの養成にも取り組まれるとのこと。県が作成した資料館概要(写真右)によると、「子どもから大人まで幅広い年代や外国の



資料館建設は、長年の願い

人たちに、イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史を時間の流れに沿ってしつかり伝え、その教訓を未来につなぐ展示」を目指すとのこと。イ病の記憶、公害の経験を伝える場が、新たに生まれます。

<http://aozora.or.jp/archives/category/ecomuse/morimaki>

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



こんにちは新着図書です

ウィリアム・カムクワンバ『風をつかまえた少年—14歳だったぼくはたったひとりで風力発電をつくった—』文藝春秋、2010年



池上彰氏がある番組の中で紹介したのがこの本ですが、原発問題で風力発電が脚光を浴びる前のことでした。「アフリカの最貧国マラウイに生まれたウィリアム・カムクワンバ。貧困のため中学校の学費を払えず中退したが、たまたまNPOの図書室で出会った一冊の本『風力発電』。独学で、自宅の裏庭に廃品を利用した風車を製作し、家に明かりをとすことに成功する。人口のたった2%しか電気をを使う事が出来ないマラウイでの快挙を、現地の新聞が報道したことがきっかけになり、2010年9月からアメリカのダートマス大学で学び始める」と執筆者は紹介されています。

貧しさゆえに中学校を中退した少年が、本を読む力を獲得できていたため、物理学を知り、世界を知ることが出来ました。自分の富や名声を得ることに驚きます。今の日本の子供たちや青年の多くが、学びの意味をつかむことが出来ずに喘いでいることを知っています。「学び」の意味を確認する本に成りはしないかと思いました。天野憲一郎(資料整理スタッフ)

【口座番号】
00960193

千円
【二口】十万円 / 一万円 /

●寄付の方法
郵便局からお振込みいただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。

●エコミューズ活動を支援してください。あなたの寄付金は青空へとつながります。

●【ハモン基金】
寄付協力をお願いします

お知らせ

どうぞお気軽にお問い合わせください。



【加入者名】あおぞら財団
※通信欄にハモン基金への寄付とご記入ください。一口の金額はお選びください。
「エコミューズ」募集
あなたも「エコミューズ」に入っちゃおう！資料整理や展示、イベントの手伝いなど活躍の場がいっぱいです。交通費●実費支給(上限2000円)

エコミューズ活動資金
エコミューズを支えてください。あなたの寄付金は青空へとつながります。

エコミューズ活動報告書[第4・5合併号]完成！
2009.4.1~2011.3.31の活動報告書ができました。
オールカラー、12ページ。ご入用の方はエコミューズまでご連絡ください(無料/送料のみ負担)。ウェブでも見られます。<http://aozora.or.jp/archives/6143>

編集後記

今年の夏は、公害地域の今を伝えるスタディツアーを西淀川で開催したり、インターンみなさんに西淀川図書館での展示制作や資料整理をしていただきました。秋から冬にかけては、司法修習生の受入れや、中国からの行政職員や環境NGOメンバーの訪問などがひかえています。エコミューズ千客万来です。(Y)

資料館だより No.38
2011年10月号(隔月1日発行)

発行所 あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)

連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F(〒555-0013)
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
<http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>



エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害・環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材・ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください
開館●月曜日、金曜日(祝日は休み)
10:00AM~5:00PM [要予約]
利用●図書の貸し出し期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ